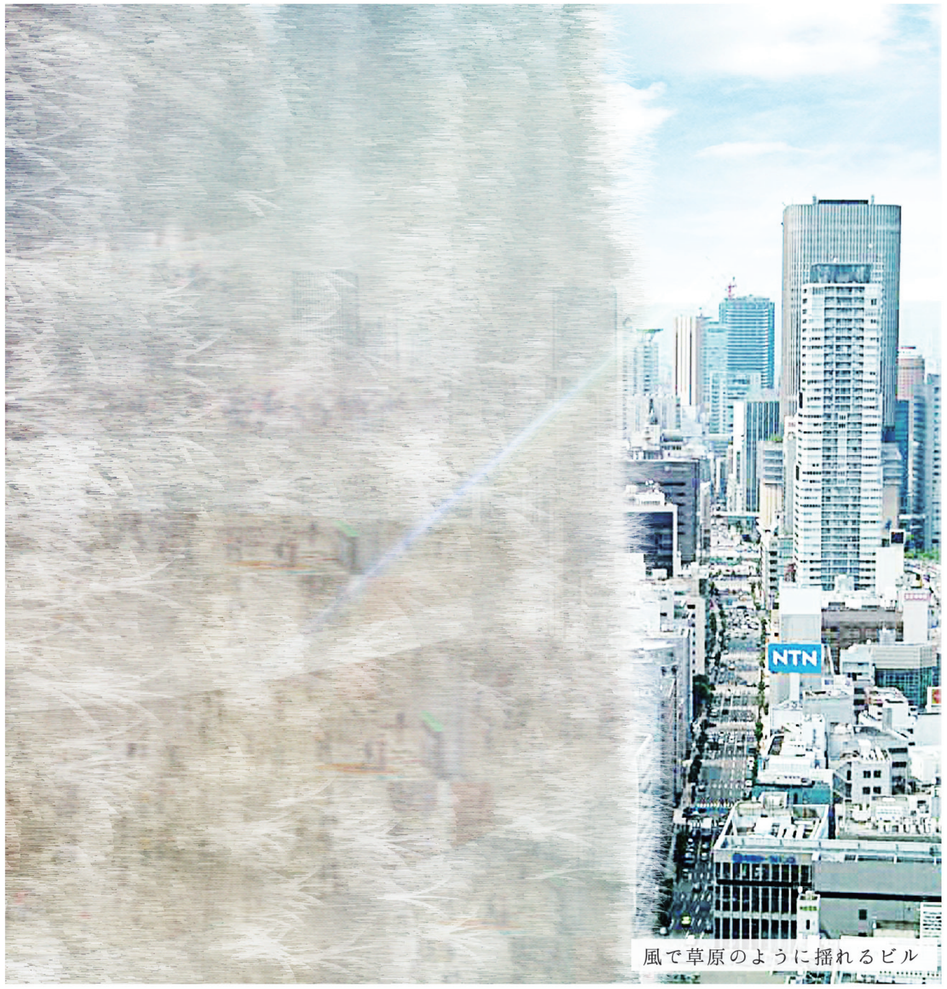
触れたいガラスのビル

ビルに触れると人によって異なる色で光る



風で草原のように揺れるビル

乱反射した光に触れたくなる

ビルの輪郭がぼやける、水滴が散らばり虹をまとう

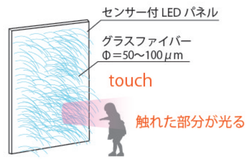
■ concept

現在、AR や VR など情報の世界と現実の世界を繋げる技術が目まぐるしく発展している。2050 年には、ウェアラブルデバイスがさらに小型化され、コンタクトレンズほどの大きさになる。身体と情報世界がより近くなる。そのヴァーチャルに溢れる世界の中では、現実世界に興味を無くし、実物に「触れる」という行為が減っていくのではないだろうか。

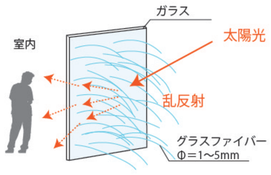
本提案ではさらに高層化が進むであろう建築に毛のような物を生やす。その毛により、雨、風、音、光など現実世界の些細な環境を拡張する。独特なテクスチャを持ち、日常の些細な変化を拡大して映し出す建築は人々に「触れたい」という感覚を呼び起こす。

■ diagram

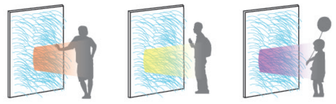
［人が触れる壁］



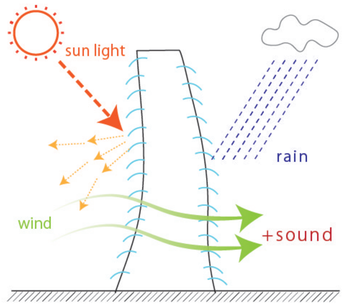
［外壁］



［ウェアラブルデバイスとの連動］



個人の情報を持つウェアラブルデバイスと LED パネルとが連動して、人によって光る色が変わる。些細な自分の変化に気づいたり、街において新しいコミュニケーションが生まれる。・



ビルに生えたガラスの毛が太陽の光、雨、風、音など日常の些細な環境を拡張し、映し出す。環境を纏う新たな都市のランドマークとなる。